

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成	申請大学名	九州大学
申請大学長名	有川 節夫		
プログラム責任者	山田 淳		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル COE プログラム等の実績を起点に、プログラムコーディネーター他担当教員の熱意のもと、順調に計画に着手されている。学内での位置付けと組織作り、学生の修学スペースの確保などが実現している。 ・初年度は入学学生を十分確保しており、学生の意欲、また、英語実践教育などカリキュラム内容に対する学生の満足度も高い。しかし入学生の専門や研究室が偏っており、『分子システムデバイス』における国際的リーダー養成の目的に沿って、幅広く学生を集める工夫が望まれる。目標とする人材育成に向け、次のステージでの教育プログラムへの注力が期待される。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムが目指す『分子システムデバイス国際研究リーダー養成』の根幹となる「分子システムデバイス科学」をよりわかりやすい形で提示し、それを実現するための教育システム、特にカリキュラムの体系をより明確に構成することが望まれる。 ・日本の物作りのリーダー像を明確にした上で、カリキュラムを重点化し、真にリーダー育成に繋げる必要がある。例えば知財や経営学などの知識習得のために特任教授を雇用しているが、思考プロセスを身に付けさせる事に特化した教育を実施する方が、人材育成のみならず予算配分の点からも効果的だとも考えられる。 ・単に専門の幅を持たせるのではなく、物づくりに必要な基礎学力を身に付けさせることが重要である。 ・グループプロポーザルは思考プロセスを身に付けさせる上で重要である。プロセス重視の指導とすべく、教員の関与、学生の評価、質の保証、また企業の関与の仕方など、仕組み作りが待たれる。 ・英語実践教育は学生の満足度は高いが、英語研修が単に米国での英語学習に終わらないよう、描く博士像に沿った水準、内容が期待される。 ・面談した学生の多くは海外での就職を希望しており、英語教育に魅力を感じ本プログラムに参加していた。物作りにおける日本の将来を背負って立つリーダーになるという気概の醸成が重要である。コース説明会、志教育の場などを通して、本コース履修の目的意識の向上が望まれる。例えば J A C I（新化学技術推進協会）では、学生がなりたい姿を形成させつつ目的意識を持って自己成長するための一助として、OBの協力を得ていくつかの大学でキャリアパスガイダンスを実施しているが、このような工夫も有効であろう。 ・本プログラムの位置付けや、学生がこのプログラム独自の行事に参加することに所属研究室の若手教員や同僚学生の理解が必ずしも充分でないこともあるようであった。 ・コーディネーターが熱意をもって博士人材育成で目指すところを、担当教員が連携して、教育プログラムとして効率高く推進することが期待される。 			